

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3555		
科目名	ストラテジー		
担当教員	川中 敬一		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 4		
講義室	1315	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－I 〔理解・分析と読解〕 文章表現における意味と含意を抽出し、分析及び理解することができる。 ■ C Rコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C 1 倫理的思考・社会認識（10%） E 1 学識と専門技能（50%） G 1 状況把握（10%） I 1 理解・分析と読解（20%） I 3 情報分析（10%）		
教員の実務経験	防衛省本省及び研究機関、並びに、自衛隊上級司令部幕僚、部隊指揮官、防衛大学校教官、そして、周辺諸国の国家・軍事戦略の研究と対謀略活動を含む情報活動を加えて30余年勤務してきました。この職務上の経験を通じて、国際関係においては、文化、経済と軍事とが密接に絡み合い、それが政治活動の原動力となっている現実を痛感しました。こうした経験に基づいて、日本ではあまり顧みられない軍事を視野に入れたトータル・グローバリズムを考えていきたいと思ひます。（第14及び15回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	孫子の『兵法』や、クラウゼヴィッツの『戦争論』など、戦略論の古典はよく社会に知られています。こうした戦略論は従来の戦争、軍事作戦だけではなく、経済活動やスポーツなどの分野にもストラテジーとして応用され広く知れ渡るようになってきています。ここでは、軍事的戦略論として有名な、リデルハートの間接的アプローチ、マハンの海軍戦略、ドゥーエの戦略爆撃論など、戦略論を思想的に分析し、それらが戦争や紛争に与えてきた影響について、更には現代社会の多様なストラテジーに与えてきた効果、影響について考察します。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためのオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード； 不変と可変、理論と実践と検証、合理性と無私の心		
授業の趣旨	■副題 危機的課題の解決基盤である「正確な情勢認識」方法と、それに基づく現実的行動指針たる「戦略」策定に必須な思考方法を歴史的戦略思想を通じて修得しましょう。 ■授業の目的 危機管理とは抽象的問題ではなく、具体的な行動に寄与しなければ無意味です。そのためには、戦略は策定されたならば、それを実践に適用し、その結果、不具合があれば現実に即して		

	検証し改正するというサイクルを反復する必要があります。ただし、情勢（時代、地勢、文化等）の特質や変化によって、戦略は一樣ではありません。本授業では、6つの歴史的戦略思想を通じて、戦略の不変部分と可変部分を峻別して、自分が直面する危機事態に対処するための最良の行動指針たる戦略を策定できる基盤を修得することを目的とします。 ■授業のポイント 6つの歴史的戦略思想が誕生した背景と経緯、その実践への適用事例を繰り返し学ぶことにより、次の3つの素養を修得します。 (1)眼前で生起している現象が、危機に発展する可能性を判断し、危機の具体像と自己へ及ぼす影響を看破できる素養。 (2)危機対象と自己の実力とを客観的、かつ、公平に分析・評価できる素養。 (3)歴史的（時間軸）視点と横断的（分野軸）視点を融合させて各種現象の可変部分と不変部分とを峻別して、それらの本質を観察・分析できる素養。 上記3つの素養の上に、6つの戦略思想の要旨を適切に適用ながら、眼前の危機事態に対して異なる価値観・存在意義を許容しつつ、私の利益を最大化できる全体的な指針（戦略）を構築するための思考上のプロセスを修得します。 以上プロセスを通じて、自然発生的危機にも人為発生的危機に対しても、それらに潜在する各種現象の淵源を自ら深く悩み、考えながら探求し、世間の風評に惑わされない正確で公平性が担保された最適の情勢判断と行動指針策定をなし得る思考方法を会得することを目指します。	
総合到達目標	■学生は、以下2点の知識に基づき、古代・近現代における国際情勢を戦略的見地から説明することができる。 (1)危機的事態に直面した際の的確な情勢判断に必要な歴史的、文化的、自然科学的基礎知識。（第1～13回） (2)原則的行動指針（戦略）策定に参考となる各種戦略思想の要旨に関する知識。（第1～13回） ■学生は、歴史的な主要軍事戦略思想を基盤としたアジア太平洋地域を事例とした戦略構造分析を通じて、現実の国際社会における戦略的観察眼を構築する。 (1)歴史的著名軍事思想に関する知的成果を通じた、眼前の社会事象に対する正確で公平な淵源・経緯・定義の把握に立脚した情勢分析及び将来予測能力の基盤を修得することができる。（第14及び15回） (2)レポートに基づく学生間討議を通じた自己の見解を他者に納得させる能力及び他者の見解を自己の見解の修正に寄与させる能力を修得することができる。（第14及び15回）	
成績評価方法	■レポート4回(80%)：適用ルーブリック E1・I1・I3 (評価の観点)第1に、提示課題に関する基本プリント教材に記述されている戦略思想の要旨を理解しているかを評価します。第2に、基本プリント及び指定参考資料を駆使して、提示課題に対して適切に考察を論述しているかを評価します。その際、基本プリント及び指定参考資料以外にも自ら論述に必要な情報を収集し活用しているかも評価します。第3は、提示課題に対する学生自らの独創的考察を最も重視します。 なお、4回のレポートの課題及び提出期限は、授業の進捗状況に鑑みて、適宜、教員から示達します。 (フィードバックの方法)提出レポートに対する教員によるコメントをもって、当該戦略思想自体に関する認識と、その現実社会における適用事例の再認識を、自らの戦略的思考の構築に寄与する参考を提供します。 ■学生間討議(20%)：適用ルーブリック C1・G1 (評価の観点)第15回授業に要求されるグループ発表及び学生間討議を評価対象とします。第1は、提示課題に対してグループ内で協同して発表資料を作成したかを重視します。第2は、自己グループ発表内容に対する他グループの学友からの質問、指摘等に謙虚、かつ、適切に回答したかを評価します。この際、発表内容に拘泥せず、適切な指摘には謙虚に見解を再検討できたか否か（柔軟性）を評価対象とします。 (フィードバックの方法)各グループの発表に対する教員のコメントをもって、当該課題に関する認識の再検討をする機会を提供します。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	日本においては、「戦略」という言句が安易に広範囲に使われている傾向があります。しかし、本来は国家や国民の生死と尊厳を賭けた闘争において「不敗」の地位を獲得するために、血のにじむような思索と、それが実践に適用された結果としてのおびただしい流血と懊悩から生まれたものが「戦略」です。それゆえ、戦略が、徹底した客観性と合理性を追求しながらも、最後は厳粛なる無私の心を人々に要求していることを履修者は意識しながら、先人達の思想に触れてください。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス（授業の意義、授業の進行方法、レポートの様式、成績評価の基準等の説

	明)、戦略の一般的概念(複数の戦略に関する定義の紹介) ②授業概要 (ガイダンス) 学生は、本授業専用ノートの記載要領、予習・復習の具体的な進め方、レポート作成要領、学生間討議要領及び評価の基準(授業内レポートの内容・提出時期等)を確認する。 (戦略の一般的概念) 学生は、各戦略思想家が定義した戦略の概念と現代のいくつかの軍隊等が定義する戦略の概念及び戦略の種類・階層、国家(集団)の理念、戦略、政策、戦術、戦闘との関係を説明できる。(C1・E1・I1) ③予習(120分) 学生は、購入各指定図書の「まえがき」と「あとがき」に相当する部分を読書する。 ④復習(120分) 学生は、第1回授業で配布するプリントに従って、爾後のレポートのフォーマットを作成する。なお、各学生が作成したフォーマットは、第2回授業時に担当教員へ提出し、指導を受けるものとする。
2	①授業テーマ 近代ヨーロッパ社会とクラウゼヴィッツの『戦争論』(I) ②授業概要 学生は、クラウゼヴィッツの『戦争論』の根底に流れるフランス啓蒙主義に触発されたフランス革命と革命戦争の成果を集大成したナポレオン戦争、更にはドイツ啓蒙主義に啓発されたプロイセンの軍事的改革の概要を説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第1回授業で配布されたプリント(第2回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第2回授業該当部分)及び講義ノートを読み、第2回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
3	①授業テーマ 近代ヨーロッパ社会とクラウゼヴィッツの『戦争論』(II) ②授業概要 学生は、『戦争論』の要旨と同書が後年における各界へ及ぼした影響が、個々の具体的事象においていかに発露したかを説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第1回授業で配布されたプリント(第3回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第3回授業該当部分)及び講義ノートを読み、第3回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
4	①授業テーマ 近代工業化・大衆化社会とドゥーエの『空軍戦略』 ②授業概要 学生は、第2次産業革命期のヨーロッパ社会の変革と、ドゥーエの空軍戦略思想、特に「制空」の概念の要旨を説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第3回授業で配布されたプリント(第4回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第4回授業該当部分)及び講義ノートを読み、第4回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
5	①授業テーマ リデルハートの「間接的アプローチ」 ②授業概要 学生は、リデルハートの「間接的アプローチ」の具体的な内容と、それに該当する近・現代の軍事的現象との関連について説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第4回授業で配布されたプリント(第5回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第5回授業該当部分)及び講義ノートを読み、第5回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。

6	①授業テーマ 人類普遍の戦略思想「孫子兵法」(Ⅰ) ②授業概要 学生は、春秋時代から戦国時代にかけての中国における社会的変革と、儒教・道教が孫子の戦略思想に与えた影響を説明できると同時に、第5回授業で配布された『「孫子兵法」教本(抄訳)』の第1～4篇の要旨を説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第5回授業で配布されたプリント(第6回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第6回授業該当部分)及び講義ノートを読み直し、第6回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
7	①授業テーマ 人類普遍の戦略思想「孫子兵法」(Ⅱ) ②授業概要 学生は、第5回授業で配布された『「孫子兵法」教本(抄訳)』の第5～9篇の要旨を説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第5回授業で配布されたプリント(第7回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第7回授業該当部分)及び講義ノートを読み直し、第7回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
8	①授業テーマ 人類普遍の戦略思想「孫子兵法」(Ⅲ) ②授業概要 学生は、『「孫子兵法」教本(抄訳)』の第10～13篇の内容及び孫子兵法が、近・現代中国軍事戦略にどのように影響を及ぼしているかを説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第5回授業で配布されたプリント(第8回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第8回授業該当部分)及び講義ノートを読み直し、第8回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
9	①授業テーマ 中華的戦略思想の集大成たる毛沢東思想(Ⅰ) ②授業概要 学生は、19世紀中葉以降の中国をめぐる国内外情勢の概要と、近代中国革命の理念を説明できる。同時に、外部世界が中国社会に与えた影響、更には、毛沢東という人物の建国までの活動の概要を説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第8回授業で配布されたプリント(第9回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第9回授業該当部分)及び講義ノートを読み直し、第9回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
10	①授業テーマ 中華的戦略思想の集大成たる毛沢東思想(Ⅱ) ②授業概要 学生は、「中国革命戦争の戦略問題」、「実践論」及び「矛盾論」の要旨と、具体的事象を通じた思想適用の実相を説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第8回授業で配布されたプリント(第10回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第10回授業該当部分)及び講義ノートを読み直し、第10回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。

11	①授業テーマ アメリカの発展とマハンの「シーパワー」(Ⅰ) ②授業概要 学生は、建国期から20世紀初頭にかけてのアメリカの国内外情勢の概要とともに、国内社会経済状況の変容と帝国主義敵対外膨張との関連を説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第10回授業で配布されたプリント(第11回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第11回授業該当部分)及び講義ノートを読み直し、第11回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
12	①授業テーマ アメリカの発展とマハンの「シーパワー」(Ⅱ) ②授業概要 学生は、マハンのシーパワーの概念と海洋政策の骨子を説明できる。特に、シーパワーの概念がアジア地域へ及ぼした具体的事象への影響を論理的に説明できる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第10回授業で配布されたプリント(第12回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第12回授業該当部分)及び講義ノートを読み直し、第12回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
13	①授業テーマ アメリカの発展とマハンの「シーパワー」(Ⅲ) ②授業概要 学生は、第2次世界大戦後アメリカの軍事戦略におけるマハンのシーパワー概念が反映されている具体的事象と、変更された具体的事象とを判別して説明することができる。(E1・I1) ③予習(120分) 学生は、第10回授業で配布されたプリント(第13回授業該当部分)を熟読し、その要旨とコメントを作成する。 ④復習(120分) 学生は、プリント(第12回授業該当部分)及び講義ノートを読み直し、第12回予習で作成した要旨とコメントを修正する。なお、この修正した要旨・コメントは、指示される時期に担当教員へ提出するものとする。
14	①授業テーマ 「今日のアジア・太平洋地域における戦略的構造」に関する考察。 ②授業概要 学生は、第10回授業で配布されたプリント「海洋をめぐる中国の戦略的構造」に基づき、別途示達されるテーマに関する学生グループ内における考察、意見交換を統合し、第15回授業時における学生グループ発表資料(パワーポイント及びレジュメ)を作成作業を実施する。(C1・E1・G1・K2・L1) なお、担当教員の実務経験を踏まえて、国家の政治戦略と軍事戦略とを合わせたアジア・太平洋情勢の実態を重点的に講義します。 ③予習(120分) 学生は、第10回授業で配布されたプリント「海洋をめぐる中国の戦略的構造」を熟読し、別途示達されるテーマに関する自身の考察をまとめる。その際、図書館及び担当教員の蔵書を積極的に活用する。 ④復習(120分) グループ内討議の結果を各人に課せられたレポートに反映する修正を行う。
15	①授業テーマ 「今日のアジア・太平洋地域における戦略的構造」に関する考察の学生グループ発表。 ②授業概要 学生は、グループ発表を通じて個人の知恵とグループの知恵とを結合して、共通課題におけるグループの見解を他者に納得させる。同時に、他者からの指摘、見解を参考にし、自身の見解の修正と発展させることができるようになる。(C1・E1・G1・K2・L1) なお、担当教員の実務経験を踏まえて、国家の政治戦略と軍事戦略とを合わせたアジア・太平洋情勢の実態を重点とした補足説明を実施します。

	③予習（120分） 第14回授業でまとめた発表資料を基に、グループ内統一見解を再確認し、発表予定を実施する。同時に、グループ内の他成員の見解を参考にして、自己の最終レポートを修正する。 ④復習（120分） 第15回授業の結果を最終レポートに反映、修正して、最終稿を作成する。
関連科目	安全保障論1（RMGT3551）、安全保障論2（RMGT3554）、防衛政策（RMGT3557）
教科書	■授業中に配布するプリント教材 ■市販教科書 （1）浅野裕一『孫子』（講談社、1997年）ISBN：978-4-06159-283-4（定価：1,000円（税別）） （2）織田貞雄編・訳『マハン 海上権力論集』（講談社、2010年）ISBN：978-4-06-292027-8（定価：920円（税別））
参考書・参考URL	以下の他、授業中に逐次、教員から別途案内します。 （1）カール・フォン・クラウゼヴィッツ『戦争論 レクラム版』芙蓉書房出版、2001年、ISBN：978-4-8295-0298-3（定価：2,800円（税別）） （2）瀬井勝広『戦略論大系⑥ドウエ』芙蓉書房出版、2002年、ISBN：4-8295-0307-6（定価：3,800円（税別）） （3）ヘイジル・ヘンリー・リデルハート『リデルハート 戦略論 間接的アプローチ（下）』原書房、2010年、ISBN：978-4-562-04551-8（定価：2,400円（税別）） （4）村井友秀『戦略論大系⑦毛沢東』芙蓉書房出版、2004年、ISBN：4-8295-0308-4（定価：3,800円（税別）） （5）岡本隆司『中国の論理』中央公論社、2016年、ISBN:978-4-12-102392-6（定価：820円（税別）） （6）渡辺惣樹『日本開国』草思社、2000年、ISBN：978-4-7942-1737-0（定価：1,800円（税別）） （7）末里周平『セオドア・ルーズベルトの生涯と日本』丸善プラネット、2013年、ISBN：978-4-86345-1735（定価：1,000円（税別）） （8）渡辺惣樹『日本 1852 ペリー遠征計画の基礎資料』草思社、2016年、ISBN:978-4-7942-2220-6（定価：900円（税別）） （9）後藤敦史『忘れられた黒船 アメリカ北太平洋戦略と日本開国』講談社、2017年、ISBN:978-4-06258654-2（定価：1,850円（税別）） （10）M・C・ペリー『ペリー提督日本遠征記 上』KADOKAWA、2014年、ISBN:978-4-04-409212-2（定価：1,360円（税別）） （11）M・C・ペリー『ペリー提督日本遠征記 下』KADOKAWA、2014年、ISBN:978-4-04-409213-9（定価：1,360円（税別））
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィス・アワー 火曜日3限。それ以外の時間帯については、メール等で事前のアポイントメントをとることにより研究室等に対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント30%：パブリックセキュリティ30%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ0% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学90%：法学10%

